

令和 2 年 5 月 27 日現在

機関番号：34310

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13379

研究課題名(和文)カナダの演劇フェスティバルにおける地域性

研究課題名(英文)The Regional Characteristics of Theatre Festivals in Canada

研究代表者

神崎 舞 (Kanzaki, Mai)

同志社大学・グローバル地域文化学部・助教

研究者番号：50755444

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、先行研究の調査及び、現地でのフィールドワークを実施することで、カナダの演劇フェスティバルの地域的特色を明らかにし、フェスティバルが地域の発展にいかに関与してきたのかを解明することを目的とする。そこで、カナダの演劇フェスティバルの全体像を捉えると同時に、カナダの代表的なフェスティバルを取り上げ、それらの地域的特徴及び地域活性化への貢献について明らかにした。これらの成果を、国内及びカナダの学会で発表し、論文としてもまとめた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、比較的新しい研究分野であるフェスティバル研究に貢献することができ、かつ地域の活性化及び国際化に大きく寄与しているカナダの演劇フェスティバルにおける本格的な研究といった特色を有している。さらにフェスティバルに見られる地域的アイデンティティという視点から分析することにより、カナダの多文化主義を考察する上で示唆的な研究になる。同時に、過疎化が進む日本の地方活性化の媒体として、フェスティバルを活用するための一助になることが期待できる。

研究成果の概要(英文)：By examining preceding studies and conducting fieldwork, this research aims at gaining a profound understanding of regional characteristics of Canadian theatre festivals and their contribution to revitalizing the regions. After surveying Canadian theatre festivals, this research focuses on some leading festivals to achieve the aims mentioned above. These results were made public at annual conferences both in Japan and Canada as well as in academic journals.

研究分野：演劇学

キーワード：フェスティバル 演劇 舞台芸術 地域研究 カナダ

1. 研究開始当初の背景

西洋における演劇フェスティバルといえば、往々にしてヨーロッパに目が向きがちである。それは演劇フェスティバルに関する代表的な先行研究においても顕著である。つまりこの傾向は、演劇フェスティバルの研究が特定の地域に偏っていることを示している。そこで、演劇フェスティバルが盛んに開催されているにも関わらず、これまで十分に注目されなかったカナダのフェスティバルを分析することで、フェスティバル研究に新たな視点を提供できると考えた。

これまで申請者は、カナダを代表する演出家であり劇作家、そして俳優のロバート・ルパーージュ(Robert Lepage, 1957 -)作品を研究対象とし、そこに一貫して描かれているカナダのアイデンティティの問題を分析してきた。今回の申請課題であるカナダのフェスティバルに注目するに至った背景に、ルパーージュの存在がある。彼は、さまざまなフェスティバルに頻繁に参加して自身の作品を上演してきたからである。ルパーージュ作品の研究過程において、カナダのフェスティバルが、地域活性化及び地域の国際化という観点から極めて興味深い研究対象であることが明らかになった。

2. 研究の目的

過疎化が進む地域においては、地元の祭りや多種多様なイベントを通じた観光産業のさらなる活性化が求められている。その過程で、各地に点在する演劇フェスティバルの役割も見直されつつある。そこで申請者は、第二次世界大戦以降、カナダ各地で活発に開催されてきた演劇フェスティバルに着目した。本研究では、関連する先行研究の調査及び、現地でのフィールドワークを行うことで、カナダの演劇フェスティバルの地域的特徴を明らかにし、同時にフェスティバルが地域の発展にいかに関与してきたのかを解明する。カナダの演劇フェスティバルの成功例を調査することで、日本の演劇フェスティバルの活性化への貢献も期待できる。

3. 研究の方法

カナダの演劇フェスティバルを調査するにあたり、まず、演劇フェスティバル史の調査及び分析を行った。現地の大学付属図書館で資料収集を行い、図書館が所蔵していない未刊の文献などは、劇場などのアーカイブ・オフィスを訪れ、資料提供を求めた。また、フェスティバル研究においては、多くの作品を観劇することが不可欠である。そのため、実際にフェスティバルに参加し、観劇を行った。また、多角的な視野を得て作品に対する理解を深めるために、上演と関連させて行われるイベントに参加したり、制作者などに直接インタビューを行ったりした。

4. 研究成果

カナダの演劇フェスティバルの全体像、及び代表的なフェスティバルの地域的特徴を捉えるため、カナダの演劇フェスティバルの歴史に関する文献の調査及び分析、そして代表的なフェスティバルの内容とその発展過程の調査と分析ができた。

(1) 演劇フェスティバル史の調査・分析

大学図書館や劇場などのアーカイブ・オフィスでの資料収集、さらにフィールドワークを通して、主なフェスティバルの方針や上演作品の傾向などの分析を行った。具体的には、プリティッシュ・コロンビア大学とアルバータ大学の付属図書館で関連文献を中心に、資料を収集した。また、オタワのナショナル・アーツ・センターにも足を運び、アーカイブ・オフィスに保管されている資料を提供してもらった。図書館が所蔵していない資料も含まれており、貴重な研究材料を得ることができた。

さらに、フェスティバルに実際に参加し、精力的に観劇を行った。カナダの二大フェスティバルとして知られる、シェイクスピア作品を中心に上演を続けているストラットフォード・フェスティバルと、ショー・フェスティバル(アイルランドの劇作家ジョージ・バーナード・ショーに由来)にて、観劇を行った。これらのフェスティバルでは、バックステージを見学したり、制作者とのアフター・トークにも参加したりすることで、フェスティバルが開催される劇場や、作品に対する考察を深めることができた。この他にも、バード・オン・ザ・ビーチ、エドモントン・国際フリンジ・シアター・フェスティバル、マグネティック・ノース・シアター・フェスティバルにて観劇した。

また、聞き取り調査も積極的に行った。上述のナショナル・アーツ・センターではアーカイブ・マネージャーに、そしてバード・オン・ザ・ビーチのオフィスではエグゼクティブ・プロデュー

サーに、またショー・フェスティバルで長年活躍してきた劇作家と舞台美術家にもフェスティバルに関する貴重な話を聞くことができた。さらに、カナダ演劇学会のメンターシップ・プログラムに参加した際には、二名の演劇研究者より、フェスティバルに関することのみならず、カナダの演劇について幅広い知見が得られた。フィールドワークはカナダに限らず、国内でも行った。横浜で開催された国際舞台芸術ミーティング(TPAM)では、カナダを含む国内外の舞台芸術フェスティバルに関するグループ・ミーティングへの参加に加え、バンクーバーのプッシュ国際舞台芸術祭の芸術監督に直接インタビューを行い、カナダのフェスティバルに関する理解を深めた。ナショナル・アーツ・センター来訪時の成果の一部は、「シーン・フェスティバル」などを紹介しながら、「カナダ連邦結成 150 周年を迎えたナショナル・アーツ・センターの試み」としてまとめ、『国際演劇年鑑』に発表した。

(2) カナダのシェイクスピア・フェスティバルと国際演劇フェスティバルの調査・分析

かつての宗主国イギリスの文化的影響の大きさから、特にカナダの英語圏では、現在もシェイクスピアに因んだフェスティバルが目立つ。そこで、二大フェスティバルの一つで、シェイクスピアに因んだストラットフォード・フェスティバルに着目し、調査を行った。その上で、二大フェスティバルのもう一つ、ショー・フェスティバルも比較対象として考察した。各フェスティバルの発展過程や地域的特色に加え、これらのフェスティバルが英語圏のものであるにも関わらず、英語圏とフランス語圏の舞台芸術をつなぐ交流の場となっていることも明らかになった。

上記の成果の一部を、「2017 年度のショー・フェスティバルにおける演劇の伝統と革新 積極的観客参加を中心に」として『カナダ研究年報』に発表した。この論考では、芸術監督がかわることによる上演作品に及ぼす変化を中心に分析した。また『国際演劇年鑑』にも、現地で観劇した作品を含めながら「終結 100 周年を迎えた第一次世界大戦の記憶」としてまとめた。さらに、ストラットフォード・フェスティバルで上演されたルパージュ演出の『コリオレイナス』を考察するために、それ以前にルパージュが手掛けた『シェイクスピア三部作』を分析し、「ロベール・ルパージュの『シェイクスピア三部作』における操作される視線」として『近現代演劇研究』に発表した。他のシェイクスピア・フェスティバルに関しては、2020 年に刊行された『総合研究カナダ』の中で紹介した。今後各地のフェスティバルにおけるさらなる検証を行い、より詳細な地域的特色を明らかにしたいと考えている。

さらに本研究では、国際性を特徴とする演劇フェスティバルを取り上げ、フェスティバルの国際性と地域性という観点から考察した。その過程において、国際性を謳う演劇フェスティバルで上演される作品の特徴や、観客の受容の仕方について分析する必要性があるという考えに至った。そこで、カナダ国内のみならず、カナダ以外の国際的なフェスティバルで作品を度々上演している演出家ロベール・ルパージュの作品を取り上げて分析した。その成果の一部として、“Representation of ‘Japan’ in the Theatre of Robert Lepage and Its Reception” と題し、ブリティッシュ・コロンビア大学で開催されたカナダ演劇学会にて口頭発表した。また、「表現の自由」あるいは「文化の盗用」の狭間で議論となり、上演中止に追い込まれた作品『スラヴ』と『カナタ』に関する論考を「ロベール・ルパージュ演出『スラヴ』と『カナタ』に関する論考」として近現代演劇研究会にて口頭発表した。この内容に加筆修正したものは、日本演劇学会の機関誌である『演劇学論集』に掲載が決定している。

数多くの資料を収集し、積極的なフィールドワークを行い、研究成果も発表できたので、おおむね順調に研究を進めることができたと思われる。しかしながら、カナダで数多く実施されているフェスティバルの中には、時間的・物理的制約もあり、まだ十分に調査・分析できていないものが存在する。さらに、本研究の分析対象は、英語圏のフェスティバルが中心となった。『総合研究カナダ』では、カナダの舞台芸術を英仏両言語圏に分け、英語圏の舞台芸術の特徴を、主なフェスティバルや劇場に焦点を当てながらまとめたが、フランス語圏に関しては、ケベック州出身のルパージュ作品の分析が中心で、フェスティバルを十分に検証できたとはいえない。よって今後は、フランス語圏のフェスティバルにも焦点を当てて、英語圏のフェスティバルとの比較検討を行いたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 神崎舞	4. 巻 2019年度版
2. 論文標題 終結100周年を迎えた第一次世界大戦の記憶	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国際演劇年鑑2019 世界の舞台芸術を知る	6. 最初と最後の頁 57～62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 神崎舞	4. 巻 7
2. 論文標題 ロベール・ルパージュの『シェイクスピア三部作』における操作される視線	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 近現代演劇研究	6. 最初と最後の頁 32～40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神崎舞	4. 巻 2018年度版
2. 論文標題 カナダ連邦結成150周年を迎えたナショナル・アーツ・センターの試み	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際演劇年鑑2018 世界の舞台芸術を知る	6. 最初と最後の頁 66～72
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 神崎舞	4. 巻 39
2. 論文標題 2017年度のショー・フェスティバルにおける演劇の伝統と革新 積極的観客参加を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 カナダ研究年報	6. 最初と最後の頁 1～15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 神崎舞	4. 巻 70
2. 論文標題 ロベール・ルパージュ演出『カナタ』の上演をめぐる論争の意義	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 演劇学論集	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 神崎舞
2. 発表標題 2017年度のショー・フェスティバルにおける演劇の伝統と革新 積極的観客参加を中心に
3. 学会等名 日本カナダ学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 神崎舞
2. 発表標題 ロベール・ルパージュ演出『スラブ』と『カナタ』に関する論争
3. 学会等名 近現代演劇研究会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mai Kanzaki
2. 発表標題 Representation of 'Japan' in the Theatre of Robert Lepage and Its Reception
3. 学会等名 Canadian Association for Theatre Research (国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 水戸 考道、大石 太郎、大岡 栄美、池田裕子、神崎舞、木村仁、木村裕子、真田桂子、友武栄理子、マッケンジー・クラグストン	4. 発行年 2020年
2. 出版社 関西学院大学出版会	5. 総ページ数 208
3. 書名 総合研究カナダ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

researchmap https://researchmap.jp/7000026922
--

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----